



< 市町村探訪 >

「友部学」～豊かな明日へのナビゲーター～（友部町）

はじめに

友部町は、茨城県のほぼ中央に位置し、鉄道・道路等が整備されていることから、交通の要所として発展してきました。水戸をはじめ東京方面などへの通勤・通学の利便性も高いことから、人口も年々増える傾向にあります。

全国的に開発化が進み、都市化の波が押し寄せているなか、友部町では今でも多くの豊かな自然や風景が残されており。こうした豊かな自然と景観は、人々の心にもやすらぎを与え、町にとっては貴重な資源であるといえるでしょう。

友部学の発足

『友部学』は、友部町に生きる人々が「幸せ」に「より良く生きる」ために、友部町のもつ地域の資源（ひともの・こと・情報）を集めて、「行政・団体・企業・町民」がよりよいパートナーシップを結び、自治体行政の中に、常に町民の声を取り入れて町を創り上げていくことを目標に誕生しました。

友部学の4つの「共」

友部学では、次の4つを基本理念としております。

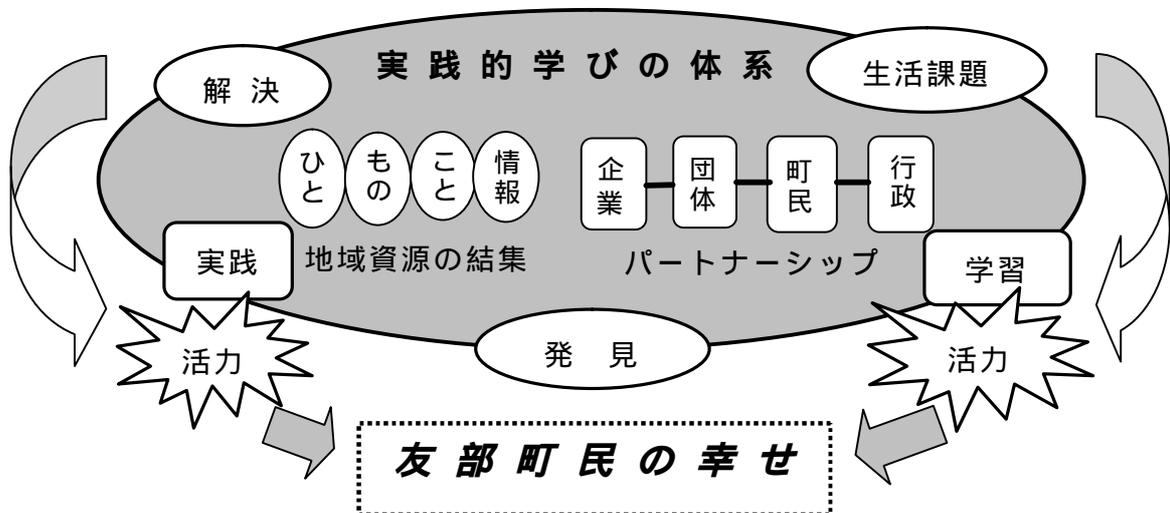
1. **共援** (互いに支えあう)
..... 行政運営の中心に「町民の参画」を置く
2. **共創** (創りあげる)
..... 「町民とパートナーシップ」で創りあげる
3. **共感** (共有する)
..... 町民が「ふるさと友部」を誇りに感じられる
4. **共生** (縁を大切にする)
..... 共に生きる「町民の幸せ」を実現する

友部学実践のためのルール

友部学を実践していくために「いくつかの約束事」(ルール)が設けられています。ルールは次の6項目です。

- 情報公開
- 町民と行政のパートナーシップ
- 町民からの提案・提言を可能な限り行政へ活かす
- 行政と議会の相互協力
- 友部町にある既存の力を尊重し活かす
- 友部町全体を学舎とする

友部学の意味とかたち





「第 2 回友部まちづくり推進大会」
平成 1 5 年 7 月 1 9 日に中央公民館で行われ
ました。



「友部学まちづくり講座」の発表
まちづくり講座は、平成 1 4 年度から積
極的に実施されています。

友部学の取り組み

友部学が計画されてから現在までに、次のような取り組みが実施されています。

1. 友部学まちづくり推進大会の開催

平成 15 年 7 月、友部町中央公民館において第 2 回友部学まちづくり推進大会が開催されました。この大会は、町民のみなさんにまちづくりへの提案をしてもらい、住民が主体となった地域づくりをみんなで考えること、そしてあらゆる視点から町を見つめ直す機会をつくるために開催したものです。当日は、延べ 453 人の町民が参加し盛会に行われました。

第 1 部は「友部学まちづくり」と題したモデル事業報告で、友部町文化協会の「ゆう・友文化スクール」や心にとどけの会の「子どもたちの心にとどけこの話冊子編集・朗読発表会」、また高齢者クラブ活動に取り組む柿橋団地の「きらく会」の「そば打ち体験や福祉ボランティア活動」、県薬剤師会の協力による「薬の上手な付き合い方」などの諸活動が紹介されました。

第 2 部では、「友部環境フォーラム」と題して、第 2 回全国ピオトープコンクール（2001 年）において、奨励賞を受賞した友部小学校の「ピオトープ活動」と、2002 年度全日本学校関係緑化コンクールにおいて学校環境緑化の部で特選に輝いた友部中学校の「学校環境美化活動」の実践発表が行われました。

ピオトープとは...地域の野生の生き物たちが自立して生息・生育する空間を意味しています。

2. 友部学まちづくり講座

平成 14 年度から実施している「友部学まちづくり講座」では、参加者自らが「教育・産業・福祉」等の分野からテーマを選び、課題に対する解決策をまとめていきます。提案として、次のような意見があげられました。

- ）住みよい地域づくり相談センターの設置
- ）知的障害者にも働く場を（コーヒーショップなどの設置）
- ）友部町昭和歴史館をつくろう
- ）見直そう友部の栗（栗をつかったまちおこし）

今後は、出前講座の開催、また音楽やスポーツ等を通じての地域住民との交流の推進が考えられています。

さいごに

これからは行政中心のまちづくりから脱皮し、町民、行政が手を取りあい様々な行政課題を解決することがとても重要であると思います。多くの課題を、実践しながら学び、解決していくという「友部学」の手法は、未来に向けたみんなのまちづくりには、とても大切なものだと思います。

(編集委員 H.K&T.T)

問い合わせ先

友部町役場町長公室 企画課まちづくり推進室
TEL : 0296- 77- 1101 (内線 323)
FAX : 0296- 78- 0612
e-mail : machi-z@town.tomobe.ibaraki.jp